

議題	第1回運営推進会議
日時	2024年11月20日(水) 13:30~14:30
場所	デイサービス井福来
出席者	(順不同敬称略) 錦田地区地域包括支援センター U様 利用者様ご家族 M様(ご主人、ご子息)、S1様(長男嫁)、S2様(妻)、S3様(妻) デイサービス井福来 センター長 渡部浩考、統括 渡部美保子、 管理者 松本順子 (議事録作成者) 渡部浩考 (議事進行者)松本順子
会議の詳細	
<ul style="list-style-type: none"> ● ごあいさつ(センター長 渡部浩考) ~出席者のご紹介、本会議の趣旨(目的)について~ ● デイサービス井福来のご紹介(センター長 渡部浩考) <ul style="list-style-type: none"> ・ふじしろデイサービス→デイサービス井福来の移転を受けての説明 ・現況/ご利用状況等 ・要介護1-5まで幅広く対応している ● 移転を受けて <ul style="list-style-type: none"> ・職員は良い体験となって成長することができました。 ・より良い環境/設備の中でさらに良いサービスを提供していきます ・職員体制は十分に確保できており、安心して利用していただけるよう努めます ● デイサービス井福来の活動(管理者 松本順子) <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境でのリズム作りが整いました ・敷地内の庭に出での活動も始めています ・男性の利用者様が増えて、ふじしろ時代とまた違った活動にも取り組んでいます ・体操指導の先生も再開して、異なった視点で利用者様の活動を支えています ※写真を投影(プロジェクター)しながらの活動報告 ● 意見交換 センター長 ご家族さん同士の困り事を共有したりとか、私どもも「そういうとこ、困ってるんだ」などと教えてもらえると助かるなと思っておりますので、いわゆる家族会みたいな感じで、もう少しざっくばらんな感じでやればなと思ってますので、よろしくお願ひします。 	

<利用者様 ご家族より>

M様(ご子息、ご主人)

認知症の初期症状の頃は、ご主人がメインで奥様を気に掛けながら生活をしていました。初期症状の頃はご主人もそれほど大変だと感じることもなく生活を共にしていました。困るようになってからは息子に頼ってなんとかやってきた。とのことでした。

息子さんが関わるようになったのは6~7年前からであるが、その時点では要介護3の認定が出て、認知症の症状による様々な課題が表面化している状態でした。

息子さんは「自分ができることはとにかくやろう」と考えながらも「いろいろと相談に乗ってもらったり」「たすけてもらったり」することも躊躇せずに、いろいろと学びながら手探りながらも前に進んでいった。とのことでした。

息子さんも精神的に潰れてしまいそうになりかけたこともあったとのことでしたが、なんとか様々なサービスを導入したりすることで乗り越えることが出来たとのことでした。

現在、お母さまは要介護5となって、当時に比べると「大変」という感覚は少なくなり、自己表現ができなくなった母親の訴えを察しようとすることに重点を置くことが多くなっているとのことでした。思えば、要介護1~3ぐらいの動きがあって、夜寝てくれなかったり、大きな声を出したりしたときの方が大変だったと思うとのこと、参加されていた他のご家族に対しても、認知症の進行で状態は少しずつ変わってくるけど、ケアマネ・送迎職員・お医者さんなどいろいろな人に相談して吐き出すことも積極的に行った方が良い。とご助言くださいました。

S2様(妻)

デイサービス井福来は2か所目の事業所になります。なかなか、こういう事業所に通ってくれない性格であったが、なんとか通ってくれているので一安心している。元板前とのことで職人気質で頑な性格であり、大勢の中でガヤガヤ一緒にいるよりも個人活動の方が性に合っているため、その辺りがうまくかみあっているのであれば安心だと思う。

自宅では、お風呂に入って最後にお風呂を洗う。という長年の習慣を今も続けようとしてくれているが、思うようにできていない部分もあり、もう洗わなくて良いことにしたいのだが、それを変えてもらうこともなかなか難しく、少し困っている。

アルコールについては、もう飲まなくなったので安心です。本人は飲んだと勘違いして思い込んでいる場面もありますが、実際には飲んでいない。という感じです。

10年以上前に違和感に気づいて受診した際にMCIと診断されたことを考えると、時間をかけて本当にゆっくりと認知症が進行している感じで、急激な変化に至っていないことは助かっていると言えるかもしれないが、Mさんの話を聞くと、いずれ変化の日も来るかもしれない。と思いました。

S2 様(妻)

ご主人と2人暮らしで子どももいらっしゃらない。今のところ、大きく困ったこともないし、他のご家族に比べれば「何も問題ない」ぐらいのレベルかもしれない。とのこと。

ご主人は耳が遠かったり、膝が悪かったりなどもあるが、それが決定的に生活を阻害していることもなく、なんとか二人でやりくりして生活が成り立っているということで、生活力の強さも非常に大事だなと感じられる発言も多かった。

一方で、ご主人も「井福来に出かける」と出かけることに抵抗なく通おうとしてくれているので、この縁は繋げていくべきだという判断で通いの場を継続しているということでした。様々な繋がりを大事にしていくという判断を適切に行っていました。

他のご家族の話も聞きながら、いつかうちもそういう日が来るのかな。と発言されておりましたが、そういう気持ちの整理も大事にしていくきっかけになったようです。

S1 様(長男嫁)

義母はふじしろ時代から通わせていただいています。義母は真面目で我慢強くて、義父ともたくさん会話を交わすような感じでもなく、笑顔もそんなに見せないタイプの性格だと思っていました。老人会などの誘いも断るような人だったので、デイサービスのような場に通えるのか不安でしたが、上手に誘ってくれて生活リズムが出来て本当に良かったです。最近では、笑顔も増えて、冗談ですが、むしろ今の方が幸せなのではないか？と思ってしまうこともあるぐらいです。認知症の進行と共にやわらかい性格が垣間見えるようになって、本来の気質もそういう部分が本当はあったのかもしれないですね。

着替えがされていない。などの違和感から認知症に気づいたのですが、デイサービスなどを活用して生活リズムが出来てきたことで、枕元に着替えを置いておくという習慣的に着替えをするようになってくれたりして、良い傾向にあると思います。それでも、下着の交換など課題はこれから増えていくかもしれませんね。心の準備も必要です。

そうは言っても、義父や主人(長男)の理解も少しずつ進んで手伝ってくれる場面も増えているので、今のところはなんとか続けていけるかなと感じています。

錦田包括 U 様

ご家族のリアルな話が聞けて本当に勉強になりました。それぞれのご家族にそれぞれの事情がある中で、いろいろな考えや工夫のもとに生活をされていることは非常に参考になりましたし、今後の包括支援センターの活動の中でも紹介させていただきたいと考えています。家族の認知症が進んだ時に混乱してしまうケースはたくさんあります。そういうときのアドバイスにもなると思いました。

最後にそれぞれのご家族様に対しての受容と共感も表現してくださいました。

統括 渡部

お配りした資料の中に、私どものケアマネージャーが認知症の理解を進めていくために参考になるような資料を作ろう！ということで作成した情報誌があります。認知症の専門医のご紹介などもあります。介護サービスを使いながらの1週間の生活事例などもありますので、参考にしてみてください。残念ながら認知症は進行して少しずつ変化もしていきますが、ある程度の情報や知識を持つておくことで、その変化にも対応できます。

センター長 渡部

お忙しいところありがとうございました。急に寒さも強くなり始めて、いよいよ冬がやってきます。お体にお気を付けください。次回はまた半年後の令和7年5月頃を予定しています。ちょっと他の家族の話も聞いてみたい。話を聞いて欲しい。という機会としてもご活用ください。